

物価上昇 8月3.1% 24カ月連続

8月の消費者物価指数
(2020年=100)

は、値動きの大きい生鮮食品をのぞく総合指数が105・7となり、前年同月より3・1%上昇した。電気・ガス代が下がった一方で、食品の高値が続いているほか、政府の補助金が減った影響でガソリン代が大幅に上がった。上昇は24カ月連続。昨年9月からは12カ

月連続で3%以上の伸びが続いている。▼7面
食品「値上げ疲れ」
総務省が22日に発表し

た。とくに影響が大きいの
は食品の値上がりだ。
生鮮食品をのぞく食料は
9・2%上昇し、26カ月

連続で前年水準を上回った。内訳をみると、夕マゴが35・2%アップと高値が続いているほか、牛乳やヨーグルトも10%を
超す上昇を記録。食パンも高く、朝食に使う食材の値上がりが目立った。

ガソリン代の上昇も家計を苦しめている。政府は6月から補助金を段階的に減らしており、8月は前月より5・0%、前年同月比では7・5%上昇した。円安や原油高の進行で、レギュラーガソリンの価格は高騰したが9月7日から補助が拡充されたため、足元ではやや下がっている。電気代は前年同月より20・9%、都市ガス代は13・9%下がった。こちらは政府の補助金の効果がまだ大きく、8月の料金を計算する際に用いる燃料価格も安かった。(米谷陽二)

食品「値上げ疲れ」鮮明に 価格上昇ほど支出伸びず



値上げ幅が大きい主な品目
8月の消費者物価指数、前年同月比

	タマゴ	35.2%
	ヨーグルト	14.6
	アイスクリーム	12.7
	調味料	10.5
	カップ麺	9.5
	トイレトペーパー	15.2
	ガソリン	7.5
	宿泊料	18.1

食品の値上げが家計を圧迫している。総務省が22日発表した8月の消費者物価指数をみると、生鮮食品を除く食料は前年同月より9・2%上昇した。伸び率が9%台となるのは5カ月連続だ。この秋も食品の値上げは続き、食費のアップは避けられそうもない。

▼1面参照

来月は酒など453品目値上げ

帝国データバンクの調べでは、9月は調味料や冷凍食品、菓子など2067品目が値上げされた。数は前年の7割程度に減ったが、スパイス類やアイスクリームなど再値上げする製品もある。10月には酒やオリブオイルなど4533品目の値上げが控えている。

ただ、その後は値上げの動きが鈍りそうだ。調査担当者は「足元の生産コストは上昇しているが、メーカーは価格転嫁に慎重になってきている。値上げすると売れないから。消費者の『値上げ疲れ』は鮮明になっ

家計は食品の値上げに敏感に反応している。総務省が5日公表した7月の家計調査をみると、2人以上の世帯が食料にかける金額は、17カ月連続で前年同月を上回った。1年前から伸び率が3%以上の状態が定着し、今年7月は5・8%アップ。それだけ家計の負担が増している。

ただ食料価格の上昇率に比べると、支出の伸びは抑えられている。家計は値上げをすべて受け入れておらず、買う量を減らして対応していることになる。物価変動の影響を除いた実質の金額でみると、値上げが進んだ昨年10月から10カ月連続で前年水準を割った。

買う量が減った品目は、生鮮食品以外では油脂や麺類、乳製品が目立った。食用油やカップ麺、ヨーグルトなどの値上げが相次いだ。直近の支出の伸びは、小幅か横ばいだった。

一方、値上げが著しいタマゴは、ほかの食品と比べると、買う量はあまり減っていない。この夏、平均的な家庭では月1100円ほどタマゴを買った。前年より3割ほど増えたが、食費に占める割合は小さい。多くの家庭では食卓に欠かせないこともあり、仕方なく値上げを受け入れている様子が見られる。

(米合陽一)